

医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会 報告（案）

日 時	令和7年11月12日（水）10：00～12：00
場 所	乙訓保健所 2階講堂
主 催	「医療的ケア」委員会
参加者	コーディネーター養成研修修了者13名 医療的ケア委員会3名 事務局1名 関係者及び関係機関：乙訓保健所2名 訪問看護1名 看護師1名 京都府医療的ケア児等支援センター「ことのわ」（京都府障害者支援課）2名 事例提供者1名 計24名
傍 聴	関係者及び関係機関：市職員4名 市議会議員1名 訪問看護ステーション1名 計6名
内 容	1. 医療的ケア児の就学に関わる制度について （京都府医療的ケア児等支援センター「ことのわ」） 2. 地域で暮らすことについて（当事者ご家族） 3. グループ交流 （自己紹介、感想、それぞれの立場から感じたこと、これからの支援について）

グループ交流の記録

1 グループ

- ・普通について考えた。
- ・親の気持ちに寄り添いながら先を見すえて、姉と一緒に成長に合わせて、母の働きたいをサポートしていくことが大切。
- ・地域にはまだ保育所に行けない人もいる。

2 グループ

- ・素晴らしいケースで、それぞれの組織の文化、背景が違中、人脈を活かして支援してこられた。
- ・訪問看護が学童や学校に入れないことの方が多い。
- ・早くから計画的に動くこと、ブレインとなる人物がチームの中にいたこと、横のつながりを大切にする
こと、法制度も追いついてきて、時代がついてきたこと、あわせて本人のバイタルの安定などの強さがある。

3 グループ

- ・何か力になりたいと思っても、支援者の何気ない言葉がご家族を傷つけることもある。
- ・組織としてできないこともあり、一对一のやりとりだとうまくいかないこともあるため、関係者がチームとなることが大切。地域づくりが必要。

4 グループ

- ・地域にどんな子どもがいるのか、もっと知りたいと思った。
- ・普通とは何かを考えた。成長していく中で親の気持ち、互いの気持ちを知ることの大切さ。
- ・その子に必要な環境を考える前例ができて今後に広げられる。
- ・成人の福祉としての課題も出てくるため、地域で取り組んでいきたい。

アンケートまとめ（個人が特定されないよう内容は変えず、一部表現を変えている箇所があります。）

回答者数 20 名

◎記入者 ・コーディネーター養成研修修了者 13 名 ・その他 6 名 ・記入なし 1 名

(1)「就学に関わる制度について」を聞くことで、医療的ケア児の就学に関わる制度を知り、地域で暮らすことについて考えることができましたか。また、理由や感想を教えてください。

・できた 17 名 ・どちらでもない 3 名 ・できなかった 0 名

(理由・感想)

- ・系統立てて、コンパクトに説明してくださり、とてもよくわかった。
- ・家族の思いを大切に、何が出来るのかを共に考えていくことが大切。
- ・受講後に実ケースを担当していなかったのも、改めて確認、アップデートする機会を得られた。
- ・機会がないと知れない知識やそんなことがあったんだ、誰も教えてくれなかったという場面があったのが今まで残念。
- ・地域療育等支援事業がなくなって医療的ケアの予算になると聞いたのでサポート事業のことかなと思った。
- ・制度の移り変わり等、知ることができた。
- ・家族を支えるための法制度を知ることができた。知識がないと提案できることも少ないので、学ぶことができてよかった。
- ・よくまとまった資料と説明をありがとうございました。
- ・医ケアが増え、同時に就学する児も増えていることを考えると、ますます拡充していく必要のある制度だと感じる。
- ・本人、家族、支援者が一体となって、ないものを作りあげてきた稀少なケースだと思った。一方で自分が関わっている子どもたちは足元にも及ばない現実の中で、1つの事業所が身を削って受け止めていることを知ってほしいと思った。はっきり言って、今回の市だからうまくいったケースだと思う。
- ・時間が短かったのも内容を理解したり、地域で暮らしたりすることについて考えるまでに至らなかった。

(2)「地域で暮らすことについて」を聞くことで、ご本人やご家族の思いを知り、地域で暮らすことについて考えることができましたか。また、理由や感想を教えてください。

・できた 20 名 ・どちらでもない 0 名 ・できなかった 0 名

(理由・感想)

- ・ご家族のお話、胸にずっとささり続けた。地域の方々と一緒に、私も何かできればと思った。
- ・家に閉じこもるのではなく積極的に外に目を向けていくことが大切。
- ・相談として関わる方でも大切に作る観点を改めて考えさせられた。先入観を持ちすぎず、本人、家族に寄り添いながらやっていこうと感じた。
- ・続報が聞けて良かった。小学校楽しくがんばってください。
- ・改めて思いを聞くことができて、これからについても考えていくのにいかしていきたいと思います。
- ・ケースの一例を知ること、家族が何を思い、何を望まれ、今の生活へとつながったのかわかった。参考にしていきたい。
- ・今まで自分の価値観が強かった。地域の学校を選んだ気持ちの流れがわかった。

- ・医ケア児に対しての普通が療育や支援学校に通うことになっているように思う。地域の学校と支援学校の両方を使えるようになれば良いと思った。
- ・地域ではまだまだ医ケアのある人の保育所入園がかなわない人がある。今回の事例がそういった人の暮らしを変えるきっかけになれば良いと思う。
- ・家族の思いを聞かせて頂くことができ感謝している。
- ・児、家族と接する上で「相手はどう思うか？」をよく考えて、相手の立場や気持ちを大切にしたいと思った。
- ・母の意向、本人の思いの考え方、そこへの第三者である支援者がどのように介入していくのか、当事者である方の感じてきた本心を聞くことができた。
- ・支援している人の何気ない言葉で傷つきもするし、道も開ける。相手の立場に立つことが大切だと思った。
- ・本当に色々考える点があり、貴重な話をありがとうございました。
- ・お母さんの思いがこんなふうになっていくこともあるということを知れて良かった。
- ・今回の事例の話了他の方の就学へとつなげる必要があるし、チームが必要だと思った。
- ・これまでの医ケア児の普通を良い意味で壊して、開拓していかれた保護者にとっても感動した。本人も家族も自分らしく生きていくことが大切だと思った。

(3) グループ交流を通して、医療的ケア児等コーディネーターの顔の見える関係づくりにつながりましたか。また、理由や感想を教えてください。

・つながった 18名 ・どちらでもない 1名 ・つながらなかった 0名 ・記入なし 1名

(理由)

- ・色々な立場からの意見を聞いた。制度的なむずかしさ。
- ・色々な視点からの意見が聞けて、今後の連携の参考にしたいと思った。
- ・同資格を所有する他職種、他事業の方と話をさせていただくことで、それぞれの立場での課題、現実を知ることができ参考になった。
- ・保健所の保健師さんと会えて良かった。
- ・チームとして動く大切さを感じたお話だったので、色々な視点での話を交流の中でさせてもらい、このようなつながりや視点が必要なのだと感じた。
- ・それぞれの立場があることも知れた。GWの中で医ケア児は増えているけど地域差もあるとの意見もあった。乙訓に今ある資源を大切にするにはどうすれば良いのかとも思った。
- ・とても良いGWだった。
- ・それぞれの職種から話が聞けて良かった。時間がもう少しあっても良かった。
- ・同じ地域で働いていても普段は会えないような方々と顔を合わせて交流させてもらえたことがとても良かった。普段は聞けないような病院や保健所の話も聞くことができた。

(4) 今後もフォローアップ交流会のような機会は必要だと思いますか。また、理由を教えてください。

・思う 19名 ・どちらでもない 0名 ・思わない 0名 ・記入なし 1名

(理由)

- ・「交流会」という名称が気になる。乙訓の医ケア児の現実を反映していたのか疑問のテーマだった。もっと実情を知ってほしいと思った。
- ・交流会と事例検討が組み合わさって開催されればパワーアップに繋がると思う。

- ・医ケア児の方は特にそれぞれのケースで必要な支援や環境が違うので、改めて勉強したり、ケースの話を聞けたりする機会があることが自分の学びにつながり、今後に活かしていくことができると思った。
- ・色々な考えを聞くことができる。
- ・顔の見える関係作りも必要であると思う。地域の輪を広げる意味でも必要である。
- ・このような機会がないと知り合うことがない方もいるので、これからも交流会のような事業は大切だと思っている。
- ・知ることが大切だと思う。
- ・新しいことを知る機会になる。顔の見える関係作りができる。

(5) 交流会の頻度、実施時期・日時、テーマ（知りたいこと、つながりたい人）など希望をお聞かせください。

- ・今日のお話はとてもおもしろかった。ありがとうございました。
- ・今は年1回でしょうか？もう1回ぐらいあったら嬉しい。
- ・知らなくてできなかったということをなくしたい。(相談員の立場として)
- ・資料は大きめにしてほしい。事例の方がすべり台などの遊具で遊んでいる時の呼吸器の扱い方などこんな風にすれば活動できるのかなどの事例を知れたらと思う。